研究区分	教員特別研究推進（地域振興）

<table>
<tr><td>研　究
テーマ</td><td colspan="5">地域で活躍する介護福祉士の役割の明確化とその能力開発に関する実践的研究</td></tr>
<tr><td rowspan="5">研究組織</td><td>代　表　者</td><td>所属・職名</td><td>短期大学部　社会福祉学科
・准教授</td><td>氏名</td><td>奥田　都子</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研究協力者</td><td>所属・職名</td><td>短期大学部　社会福祉学科
・准教授</td><td>氏名</td><td>尾﨑　剛志</td></tr>
<tr><td>所属・職名</td><td></td><td>氏名</td><td></td></tr>
<tr><td>所属・職名</td><td></td><td>氏名</td><td></td></tr>
<tr><td>発　表　者</td><td>所属・職名</td><td>短期大学部　社会福祉学科
・准教授</td><td>氏名</td><td>奥田　都子</td></tr>
</table>

講演題目

地域福祉領域での介護福祉士の実践と役割の可視化
―地域支援に求められる能力の探索的検討―

研究の目的、成果及び今後の展望

【研究の背景と目的】

本研究は、介護福祉士の地域福祉活動に着目し、その実態と役割を明らかにすることを目的とする。

地域共生社会の実現や地域包括ケアシステムの構築が進む中、介護福祉士には、施設を利用する要介護高齢者の生活支援にとどまらず、介護予防・フレイル予防、地域支援事業など、多様な場面で地域住民と関わりながら地域福祉を推進する役割が求められている。しかし、地域における介護福祉士の活動実態や役割・機能に関する学術的蓄積は十分とはいえず、どのような地域福祉実践が行われているのか、その全体像は明確でない。また、地域福祉実践に必要な視点や能力の開発方法、養成課程や現場研修で補うべき内容についても整理が進んでいない。そこで本研究では、静岡県介護福祉士会および静岡県社会福祉協議会へのヒアリングによる情報収集と地域福祉活動の実績をもつ事業所の介護福祉士へのインタビューを企て、活動の事態を把握するとともに、地域福祉活動に期待される役割や必要な能力を明らかにし、地域福祉における介護福祉士の役割の可視化と能力開発への示唆を得ることを目指した。

【研究の成果及び今後の展望】

令和７年度は、インタビューの実施に向けて、①先行研究の再検討を行うとともに、②地域福祉活動の実績をもつ事業所についての情報収集を進め、調査協力の内諾を得ることに注力した。

先行研究の知見を総合すると、地域で求められる介護福祉士の役割と課題は以下のとおりである。介護福祉士は身体介護や認知症支援など個別支援において高い専門性を発揮し、対象者の生活状況を丁寧にアセスメントし、関係構築を進める点に強みがある。一方で、地域社会全体を視野に入れた課題発見、社会資源の活用、住民同士のネットワーク形成、制度外支援など、対象が個人から地域へ広がる場面では専門性を十分に発揮しにくいことが示された。これは、地域共生社会の実現に向けて介護福祉士が果たすべき役割が拡大する中で、従来の介護領域中心の専門性だけでは十分に対応できないことを意味する。

したがって、介護福祉士養成教育やリカレント教育においては、権利擁護、地域福祉、地域住民への学習支援、地域資源の開発や連携調整など、地域福祉を支える知識・技術を強化する必要がある。また、地域で活動する介護福祉士の実践を可視化し、その役割や能力要件を明確化することは、地域福祉を担う専門職としての位置づけを高めるうえでも重要である。今後は、地域福祉実践の具体的なモデル化や、地域で活躍する介護福祉士の育成方法の検討を進めることで、地域共生社会の実現に寄与する介護福祉士像をより明確にしていく必要がある。

これらの知見をふまえ、令和８年度はインタビューの実施を通して、介護福祉士の地域福祉活動の実践事例を収集し、介護福祉士に求められる地域福祉実践のための役割や能力を明らかにしていく。